

令和6年度(2024年度)
学校推薦型選抜(普通科等)出題の意図・解答例

問題1 出題意図

最低賃金引き上げや所得格差の問題は、現在の日本における重要な課題であるにもかかわらず、決定的な対応策が見いだせないまま状況が先送りされている。本設題は、こうした日本の現状について、その実態と論理的思考力を試す意図で出題されたものである。

問1では、本文の記載内容を正確に読み取れるかどうかを問うている。問2は、都市部と地方との格差について、さまざまな知識や情報を得ているか、またそれらを具体的に説明する能力があるかどうかを確認する問題である。問3では、賃金の引上げと暮らしの豊かさとがどのように結びつくかについてきちんと説明できるか、すなわち論理的な思考力を問う問題である。

問題2 出題の意図

問題文は、宿題に関する研究論文からの抜粋で、宿題の定義からはじまって、宿題の効果、さらには宿題の効果に関する研究の状況について述べています。

問1は、英文の読解力および英文和訳の能力を測る問題です。宿題の効果については、意見が対立している点に言及しているかどうかことが重要となります。次に、宿題の効果に関する研究については、宿題に費やす時間と成績の向上との関係は明らかにされていない点、個々の研究は成果を上げているが研究結果は矛盾している点、矛盾が生じる原因について触れているかどうかことがポイントとなります。

問2は、受験生に自分の考えを自由に書いてもらう問題です。ここでは、自分の考えが論理的かつ適切な日本語で表現され、説得力をもっているかどうかことが重要なポイントとなります。

標準的な解答例（問1のみ公表）

問1

宿題の効果について、意見の対立が続いている。すなわち、宿題は、余暇活動の時間を奪い、その結果、退屈などの否定的な感情を生徒に生じさせるといった、マイナスの効果をもたらすという意見がある。その一方で、宿題は、生徒の理解力などを向上させるといった、プラスの効果をもたらすという意見がある。次に、宿題の効果に関する研究において、宿題により多くの時間を使えば、それに等しく生徒の成績が良くなるかどうかについては、明らかになっていない。宿題に関する個々の研究は、成果を上げているものの、研究結果は矛盾したものとなっている。その理由としては、研究された宿題の種類や頻度などにばらつきがあることなどが考えられ得る。(300字)